

ふれあいの街中空間を創る



# 公共施設 などの 再編整備 を検討しています

## 生涯学習センターの建て替えに向けた

## 北海道大学大学院生による

# 公共施設の利用状況調査結果報告

平成26年度設計、平成27年度建替工事を予定している「生涯学習センター」の基本計画立案に向けて、北海道大学大学院生5人が、市民の各施設の利用状況やまちなかでの活動の様子を把握するための調査を行いました。

調査は9月25日(水)～30日(月)にわたって行われ、統合対象の「生涯学習センター」、「生きがいセンター」、「青少年会館」、「発達支援センター」をはじめとした町内の全11施設を対象にしたヒアリング調査と、まちなかで活動している人の活動状況を把握するための遭遇調査を行いました。



ヒアリング調査では、施設の利用頻度や目的、満足点・不満点、来館手段、町民同士の交流の有無などを直接聞き取りました。また、遭遇調査では、まちなか(屋外)で活動している人たちがどれくらいいるのか、またどんな活動をしているのかを直接確認しました。

## ▶施設ごとに利用者の平均年齢に偏りがありました。

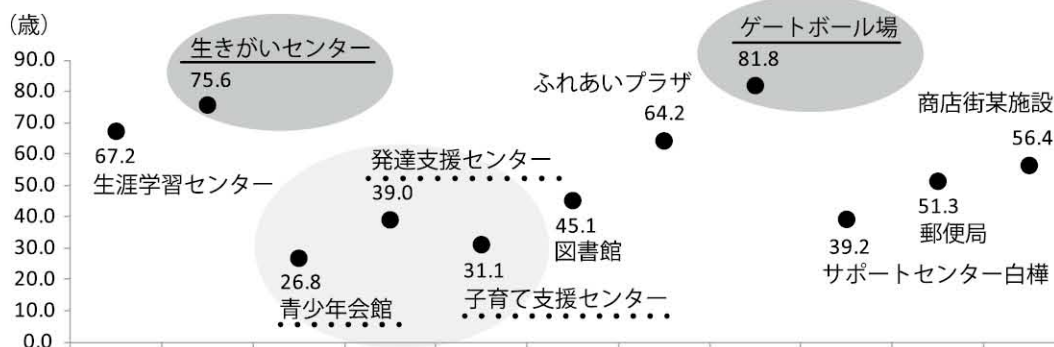


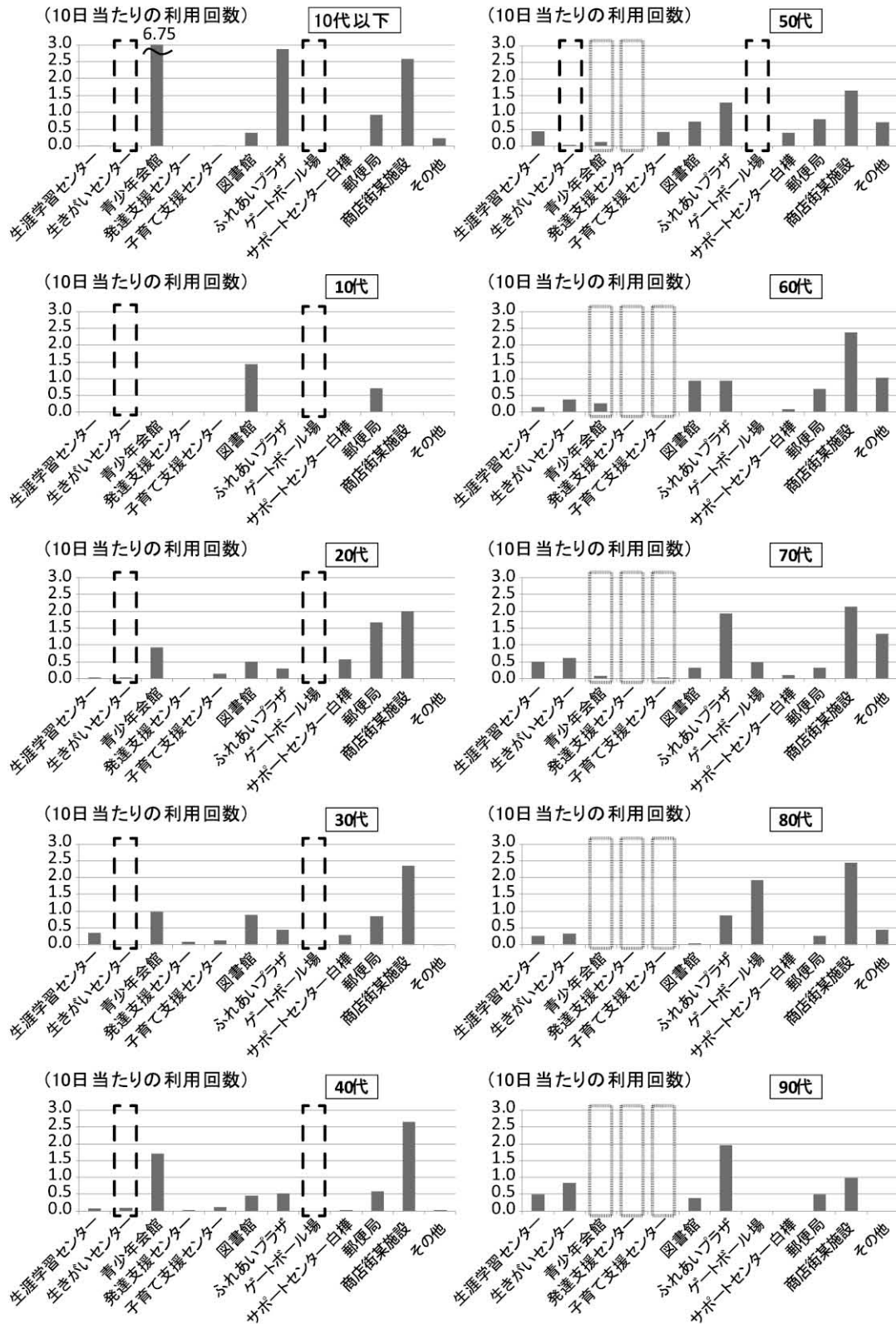
図1 各施設の利用者の平均年齢

図1は各施設での利用者の平均年齢をグラフにしたものです。これを見ると各施設にはそれぞれ利用者の平均年齢に偏りがあることがわかります。

特に、「生きがいセンター」、「ゲートボール場」の平均年齢は高く、「発達支援センター」、「子育て支援センター」、「青少年会館」の平均年齢は低いことがグラフからわかります。



図2 各年代別の各施設利用頻度



▼世代間コミュニケーションの機会が得られていません。

図2は各世代ごとに各施設の利用頻度を比較したグラフです。これを見ると、0～40代の人は「生きがいセンター」や「ゲートボール場」といった利用者の平均

年齢の高い施設の利用頻度が低く、60～90代の人は「青少年会館」、「発達支援センター」、「子育て支援センター」といった利用者の平均年齢の低い施設の利用頻度が低いということがわかります。

これはつまり、若い世代は年配の世代がよく利用する「生きがいセンター」や「ゲートボール場」にはほぼ行かない、同様に年配の世代は若い世代がよく利用する「青少年会館」、「発達支援センター」、「子育て支援センター」にはほぼ行かないということを表しています。

また、ヒアリングからも、各施設において世代間の交流がない、交流自体はあっても同世代の交流しかない、仮に世代間の交流があっても不十分である、などの意見のほか、世代間の交流を直接求める声も聞き取ることができました。

これらの結果から、現状では施設における世代間のコミュニケーションの機会を、町民は満足に得られていないと言いうことができます。

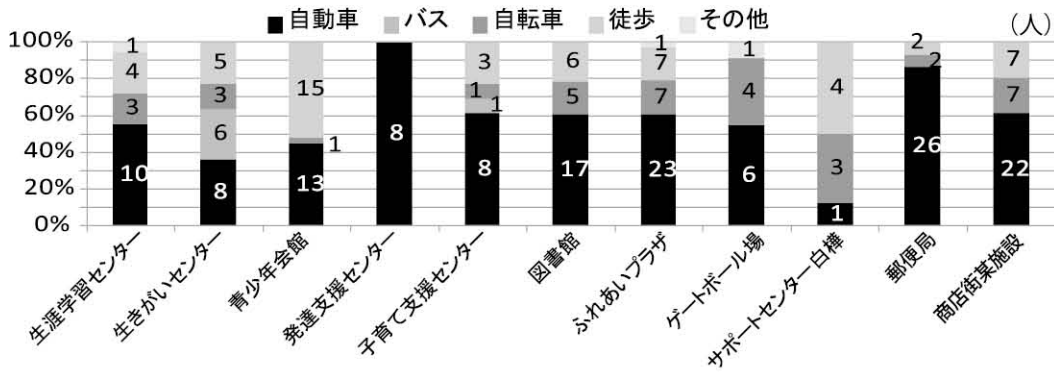


図3 各施設への来館手段

次に、町民の施設の外側での活動に着目してみます。まずは施設に来るまでの移動手段に着目して見てみます。図3は各施設ごとの施設への移動手段をまとめたグラフです。これを見ると、現状では施設への移動手段として、「自動車」を選択する町民が比較的多いことがわかります。



▼徒歩による施設利用が少ない！

## ▶ まちなかでの交流の機会が得られていません！

これらの結果から、現状では町民はまちなかへの外出や移動の際に車を使うことが多く、まちなかで人と人が直接顔を合わせるような交流の機会が得られていないと考えられます。

さらに遭遇調査によって得られた結果から、まちなかに車での移動者と徒歩での移動者がそれぞれどのくらいいるのかを比較してみます。図4は遭遇した車の台数と歩行者の人数を比べたグラフです。これを見ると両者には5倍近くの差が生じていることがわかります。

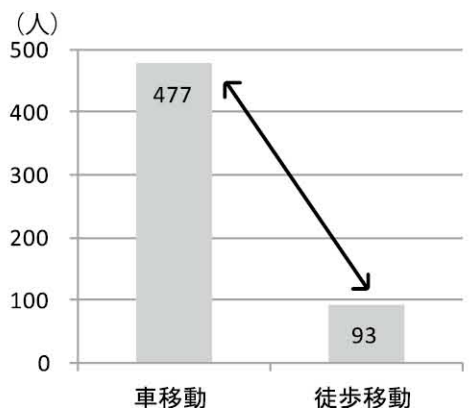
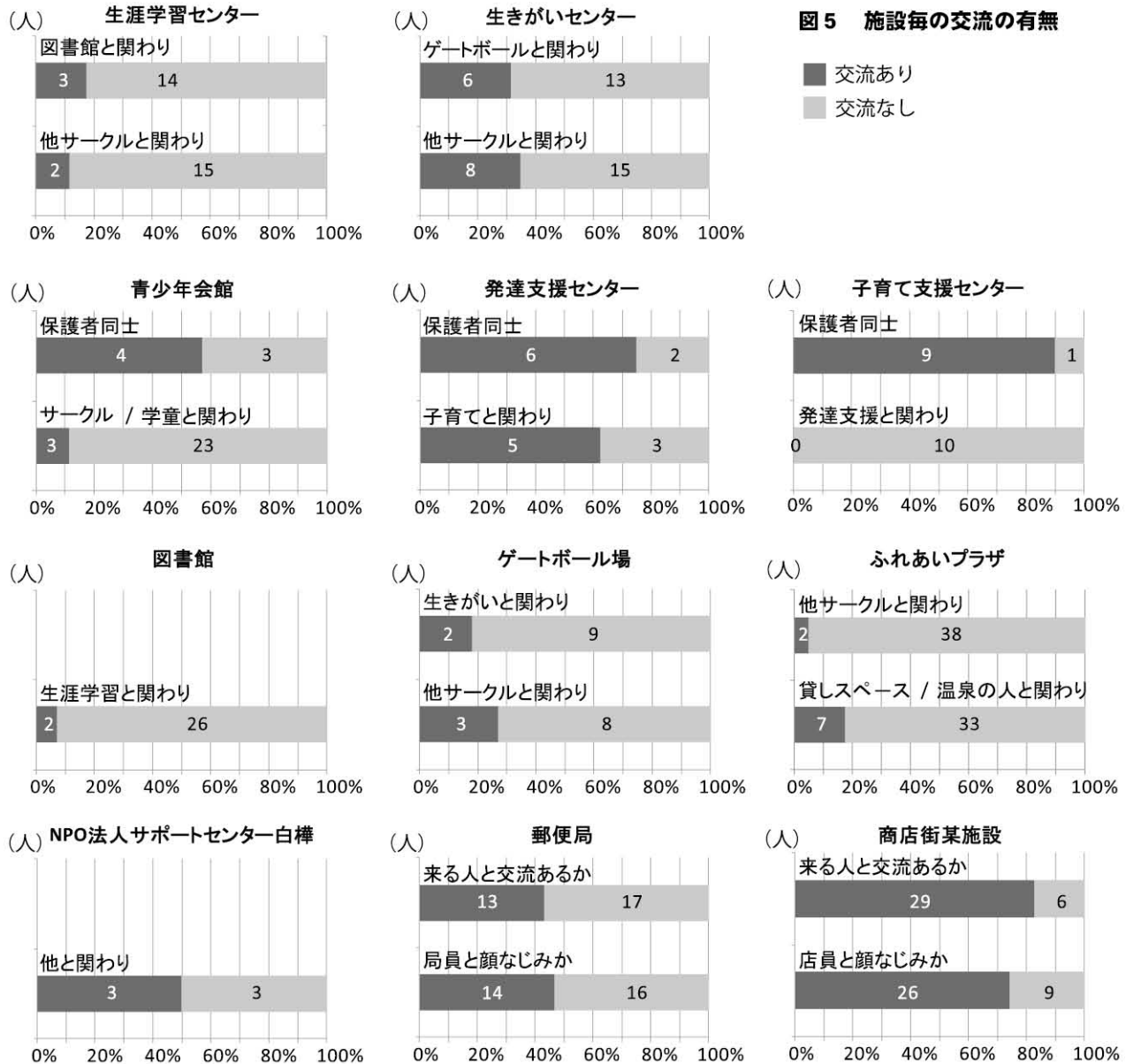


図4 車移動徒歩移動の数

## ▶ 公共施設が交流の機会を生むきっかけとなるべきです！

今回の調査を通して、世代間でのコミュニケーションやまちなかでの交流を創出するために、「生涯学習センター」の再編整備をきっかけとして、公共施設が町民同士の交流の機会を生むような計画づくりが必要であると感じました。

では、各施設では町民同士の交流はどれくらい存在しているのでしょうか。図5は各施設における利用者間の交流の有無をグラフにしたものです。これを見ると「商店街某施設」、「発達支援センター」、「子育て支援センター」では交流が見られるものの、これは「同じような課題を抱える人が集まる」「日常生活に欠かせないものとして頻繁に通う」という場の性質ゆえの結果だと考えられます。しかし「交流がない」が半数以上を上回っている施設が多く、特に再編整備対象の「生涯学習センター」、「生きがいセンター」では特に交流がないということが見られます。



## 生涯学習センター建て替えにかがる意見交換会 町民が集える施設を模型でイメージしてみよう！

町民のみなさんが気軽に集える生涯学習センターの建て替えをめざして、現在、国(内閣府)の特定地域再生計画策定事業を活用して『基本計画』づくりを行っています。これまでに、北海道大学大学院生によります「町民ニーズ調査」や、小中高生をはじめ町民のみなさんに「アンケート調査」のご協力をいただいたところであります。今後とも、町民のみなさんから広くご意見をいただくため、このたび、北海道大学大学院生を交え、町民のみなさんとともに新しい生涯学習センターをイメージするための意見交換会(ワークショップ)を開催します。

日時

12月8日(日)

13:30～15:30 (受付 13:00)

場所

生涯学習センター2階 202号室

対象

町内に在住する方

※親子(小学生高学年から高校生まで)の参加も歓迎

◆申込期限 12月6日(金)

◇主催 北海道大学大学院

◇共催 上士幌町・上士幌町教育委員会・NPO上士幌コンシェルジュ

※お申し込みやお問い合わせは、企画財政課企画担当(内線256)関、教育委員会(☎2-3024)佐藤まで